

あわつと感染症情報 (2026-26)

☆今週のトピックス☆

安房管内で劇症型溶血性レンサ球菌感染症の発生届がありました！

急性咽頭炎などを引き起こす溶血性レンサ球菌(溶連菌)が、まれに引き起こす重篤な病状として知られています。重症化するメカニズムはまだ解明されていません。突然発症する例が多く、急激に進行し、ショック状態から死に至ることもあります。致命率は、30～40%です。小児が多く罹患するA群溶血性レンサ球菌咽頭炎(溶連菌感染症)とは区別されます。

① 初期症状

- ☑腕や足の痛みや腫れ
- ☑発熱
- ☑血圧低下

② 感染経路

- ☑不明なことが多い
- ☑接触感染や創傷感染が考えられます

③ 予防

- ☑手指衛生
- ☑咳エチケット
- ☑傷口の清潔な処置

<参考>・劇症型溶血性レンサ球菌感染症(厚生労働省) https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137555_00003.html
 ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症(国立健康危機管理研究機構) <https://id-info.ijhs.go.jp/infectious-diseases/streptococcal-toxic-shock-syndrome/index.html>

☆安房管内の感染症発生状況☆

★安房管内における2026年第26週(令和8年6月22日～令和8年6月28日)

新型コロナウイルス感染症



定点医療機関当たりの報告数は**0.00人**と前週0.00人と比べ、変化はありません。

(県全体の報告数は0.69人と前週0.66人と比べ、増加)

<参考>・新型コロナウイルス感染症について(千葉県) <https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/kansenshou/ncov/covid19-chiba-index.html>

手足口病



定点医療機関当たりの報告数は**1.50人**と前週0.25人と比べ、増加しました。

(県全体の報告数は6.26人と前週4.02人と比べ、増加)

<参考>・手足口病(厚生労働省) <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/hfmd.html>
 ・手足口病の流行について(千葉県) <https://www.pref.chiba.lg.jp/kenfuku/press/2026/handfootmouth-disease.html>

報道発表されました！

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



定点医療機関当たりの報告数は**0.75人**と前週1.00人と比べ、減少しました。

(県全体の報告数は2.74人と前週2.40人と比べ、増加)

<参考>・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(厚生労働省) <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou11/01-05-17.html>

✿安房管内の全数届出疾患✿

全ての医師の方は、対象の感染症の診断を行った際に、最寄りの保健所に届け出る必要があります。

<2 類感染症>

★結核 1件

結核は、結核菌によって発生するわが国の主要な感染症の一つです。

結核菌は主に肺の内部で増えるため、咳、痰、発熱、呼吸困難等、風邪のような症状を呈することが多いですが、肺以外の臓器が冒されることもあり、腎臓、リンパ節、骨、脳など身体のあらゆる部分に影響が及ぶことがあります。特に、小児では症状が現れにくく、全身に及び重篤な結核につながりやすいため、注意が必要です。

<参考>・結核について(千葉県) https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou03/

<4 類感染症>

★日本紅斑熱 2件

日本紅斑熱リケッチアを保有するマダニに刺されることで感染するダニ媒介感染症です。

マダニに刺されてから、2日から8日程度の潜伏期間を経て発症します。主な症状は、発熱、発疹、マダニの刺し口にできる痂皮です。診断が遅れると、重症化することがあるため注意が必要とされています。

<参考>・日本紅斑熱について(千葉県) <https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/eiseikenkyuu/virus/madani.html>

<5 類感染症>

★カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 1件

主に感染防御機能の低下した患者や外科手術後の患者、抗菌薬を長期にわたって使用している患者などに感染症を起こします。健常者に感染症を起こすこともあり、肺炎などの呼吸器感染症、尿路感染症、手術部位や外傷部位の感染症、カテーテル関連血流感染症、敗血症、髄膜炎その他多様な感染症を起こします。無症状で腸管等に保菌されることも多いです。

★劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件

(今週のトピックス参照)

<参考>・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症(厚生労働省) <https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/01-05-140912-1.html>

【配信元】

千葉県安房保健所(安房健康福祉センター)

あわっと感染症情報

awat-news@mz.pref.chiba.lg.jp